

平塚市子ども読書活動推進計画(第二次)素案に対する意見と市の考え一覧

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
1	4			<p>P4～6 学校司書配置、人的物的環境整備とその活用がもっとクローズアップされる必要があります。ボランティアはあくまでも補助・サブ的な立場だと思えます。</p>	<p>物や環境が整備されても、子ども読書活動を本当に「子どもたちのもの」にする決め手は「ひと」による関わりがそこにあるかどうかだと考えます。ご指摘の通り、学校ならば学校図書館に司書教諭、あるいは学校司書といった人材が配置されて、日々の読書活動や学習指導にいかせるシステムが整っていることが、学校図書館活性化への大きな道筋です。そこにボランティアの方々のご厚志がプラスされたら、子どもたちにとってどれほど魅力的な学校図書館が生まれるか計り知れませんが、活用のクローズアップが足りないとのメッセージを激励と受け止め、人的環境整備をすすめるべく努めます。補助やサブといった位置づけを超えて、ボランティアの皆さんの支えはこれからも重要な要素です。</p>
2	5			<p>『子ども読書活動推進協議会』という組織が立ち上がり、中学校区あげての支援体制が整いつつあること、良いと思えます。本校で、その組織に所属されている方や、図書ボランティアの方の御尽力で、コンピューターによる本の貸し出し、廊下等の学年文庫の設置、本の紹介等、本当に良くして頂いております。その方達への謝礼を、少しでも予算として計上して頂けたらと思えます。“ボランティア”本来の意味とは違ってくるかもしれませんが、多大な労力と御厚意にのみ、甘えていて良いものかと思えます。</p>	<p>子ども読書活動推進協議会の運営費は、市から活動に必要な事業経費を支出しています。ボランティアへに対する謝礼は支出対象とはなりませんので、ご理解ください。</p>

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
3	5		<p>・蔵書などの管理の充実 小・中学校の学校図書館の蔵書はデータベース化を行った。 →これは小・中学校全校で終了しているという意味でしょうか。(全くデータベース化されていない学校、途中段階の学校はありませんか。司書が配置されていない学校も既に済んでいるのでしょうか)。 データベース化しているのなら 早急に中学校と小学校の連携で、小学校に中学校の本の貸し出しができませんか。</p>	<p>学校の蔵書のデータベースはすでに行っており、新規購入本を随時登録しています。相互の貸し出しについては、様々な機関と連携を図り、進められるよう働きかけます。</p>
4	5		<p>協議会については代表者会議でいろいろな問題点が挙げられています。そもそも活動状況の異なる学校ボランティアを横並びに協議会の構成員にしてしまったことに問題があるのではないのでしょうか。学校ボランティアに参加する人は学校のボランティアに参加したいのであって、子ども読書活動の推進まで考えている訳ではありません。 協議会を続けていくのであれば有志による団体を立ち上げて、各中学校区の協議会はその受け皿となって活動するのがよいと思います。(予算は雑費程度で)有志による・・・。</p>	<p>学校ボランティアの考え方は一律でなく、個人により様々であると認識しています。 ご指摘の内容は、今後の課題とします。</p>
5	8		<p>推進計画の視点「つながり」を重視したと言えないのでは。全体を通して見ると「学校」内部だけにとどまっている印象があります。家庭・地域・ボランティアとのつながりが欠けている。更に具体性にも欠けていると思います。学校内部だけでは人材不足、人手不足で図書館運営にはボランティアの助けが不可欠だと県推進計画にありますので、再考を望みます。</p>	<p>この計画は、第一次計画の検証によって足りない部分や、第二次計画の中のめざすものを達成するために、新たな「つながり」というキーワードを掲げ、平成22年度からの5年間で取り組む方向性を示したものです。</p>

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
6	9			<p>「3計画の対象」について 子どもの読書活動の推進に関わる人の中に、ボランティアグループが入っている。現在、学校のボランティアをお願いしている方々は、あくまで学校の図書室の充実に対する手助けとして引き受けて下さっている方々です。子どもの読書活動の推進に携わるという面では、もちろんお願いしたいと思うが、組織の一員として協議会などへ参加することは大きな負担となり、本来のボランティアという目的から大きくずれてしまう。負担が大きくなってしまうと、ボランティアの引き受け手も減ってしまい、学校司書がいない状態では余計に衰退してしまう。協議会の体制など、負担にならない形で考えていただきたい。</p>	<p>中学校区ごとに協議会が設立されてからは、ボランティアに、学校の保護者、公民館の図書ボランティア、自治会回覧板などの募集により集まった地域ボランティアの方々も参画されるようになってきています。また、市内には読書活動をされている様々なボランティアグループがあります。このような現状を踏まえて、本計画は市内各地区で読書活動されている様々なグループも当然対象となります。 協議会の体制や負担感などの課題については、事業番号37「子ども読書活動推進協議会の活動の活性化支援」で取り組むこととしています。</p>

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
7	10			<p>P10～11 「めざすもの」…生きる力の基礎を養うと言い切れるかどうか心配である。生きる力は、学校の創意工夫と家庭・地域との連携・協力のもとに、さまざまな活動、体験、学び、学習が総合的にからみあう中で培われるもの。 読書活動と結びつけることは、まちがいではないが、他の要素を相対的に打ち消してしまう心配がある。 「めざす子ども像」…各要素の土台の一部、条件の一部につながるものであって読書活動がメインではない。道徳教育、総合的な学習と各教科指導を通してねらうものがここにあげられているが、めざす所が大きすぎるのではないか。読書活動と他の活動の関連のあり方によって、子ども像につながっていく。ステップが飛躍しすぎている。</p>	<p>「めざすもの」 あらゆる場面で、多くの方々との関わりを経て、様々な教育活動全体を通じて「生きる力」ははぐくまれていくものです。御意見にある通り、総合的な作用で育成される力です。その基礎を養うものの一つに読書活動があり、決して他の要素を相対的に打ち消してしまうという認識ではありません。「生きる力」の要素は多様です。その多様な要素をもつ「生きる力」は、大人が“これだよ”と与えるものではなく、子どもたち自らが出会い、かかわり、体験することを通して身に付けていくものでしょう。その時、《めざすもの》の記述にある通り、“主体的に読書活動にかかわる”ことが大きな要因となると考えます。生きる力を子どもたち自身の力で身に付けていこうとすると、主体的読書活動が子どもたちの力になってくれることをめざしているわけです。</p> <p>「めざす子ども像」 めざすところが大きすぎ、飛躍しすぎではないかという御意見ですが、誕生からおおむね18歳までの子どもたちを対象に、読書活動を通して「豊かな心をはぐくむ」「自分の考えをもつ」「進んでひととかかわる」子どもたちになってほしいと掲げた子ども像です。もちろん、読書活動だけがそうした子になるためのメインであるとか、中核であるなどという思いはもっておりません。誕生後、ぬくもりあるかかわりの中で、子どもたちは五感を通して言葉を獲得していきます。聞く、話す、やがて、読む、書くなどの様々なコミュニケーション活動や学習活動を通して自立へのステップを踏んでいきます。一足飛びにはいきません。でも、18年余に及ぶ長い道のりの中で、豊かな読書活動が展開されていくことにより「めざす子ども像」に近づけるものと考えます。</p>

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
8	11		<p>P11のPISA型読解力(ピサがたどっかいりよく)はとても目立つのですが、PISA(ピサ)型読解力の表記の方がきれいな感じがするのですが如何でしょうか。 次回のPISA調査はいつでしょうか。</p>	<p>表記についてはご指摘のとおり修正します。 PISA調査はOECD(経済協力開発機構)の教育指標事業の一環として実施している「生徒の学習到達度調査」です。平成12年の第1回調査以後、3つの分野(読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー)にわたり、3年ごとに調査を実施しています。次の第5回は平成24年に数学的リテラシーを主に調査する予定です。</p>
9	15		<p>P15に、初めて「司書教諭」という言葉が出て来ますが「学校司書」と「司書教諭」の違いは何でしょうか。 P2の国・県の取組などで説明して頂けると助かります。</p>	<p>「司書教諭」は、学校図書館の専門的職務を行う教員で、国の学校図書館法に定められています。「学校司書」は、市費負担により本市独自で雇用している臨時職員で、司書教諭を補佐し、学校図書館の機能の充実を図るために配置しています。</p>
10	16	成果指標について	<p>学校司書の配置数の成果指標に平成24年度には43校全てとなっていますが、なるべく早く配置してください。司書教諭は、司書の仕事をするにあたっての配慮が特にないため、学校図書館を充実させるためには学校司書は欠かせません。また、学校司書の力は大変に大きいものなので、市内中学校15校が同時に配置されることを望みます。</p>	<p>学校司書(サン・サンスタッフ)の配置校において、児童の読書活動の成果が表れています。平成24年度のまでの小・中学校全校配置をめざして努力していきます。</p>

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
11		4 (5)	地域の子育て中の親子への絵本の読み聞かせ(ボランティアによる園児への読み聞かせ)	すでに、保育園、幼稚園で園児や開放の親子に読み語り等の活動をしている個人や団体も(私も10年程活動させて頂いています)多くあると思います。今まで各園と自発的に活動してきたボランティアと行政とが上手に手を取り合うことが大切かと思っています。	今後も子どもたちへの読み聞かせをボランティアとの協働により、進めていきたいと考えています。
12		5	ボランティアによる園児への読み聞かせ	保育園での実施と記載がありますが、対象となる保育園は市立に限られますか？読み聞かせする保育園の地域は選べますか？	公私立の保育園児と地域の方々との交流という面からも、ボランティアによる読み聞かせの場を提供します。地域割はありません。
13		8	家庭への子ども読書活動の啓発	新規の事業なので、具体例が無いためまだわかりませんが、読書活動に関するPTAや学校の理解がより深まると、図書ボランティアとしても活動しやすいと思います。	新規事業のため、周囲の理解を深めることを当面の課題と考えています。そこで、PTA等へ啓発を促すとともに、図書館ホームページ、ポスター、チラシ等で子どもの読書及び家庭での読書の大切さの周知を図ります。 「おすすめの本」リストの配布も計画しています。
14		8	家庭への子ども読書活動の啓発	わが子の通う花水小学校では、司書が毎月発行してくれる図書室便りがあります。これは子どものみならず家庭向けにも書かれているので、普段あまり学校の図書室に足を運ぶことのない保護者や忙しい学級担任の先生にも、図書室や図書委員、図書ボランティアの活動の様子、お薦めの本の情報等を知る貴重な情報源になっています。これも、司書が配置されたからこそ実現できたことであり、家庭への子ども読書活動の啓発に対しても有効なものとなっています。早く全部の小学校に司書が配置されることを願います。	学校司書(サン・サンスタッフ)の配置に伴い、読書活動の充実に成果が表れています。平成22年度に小学校全校配置いたします。

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
15		8 家庭への子ども読書活動の啓発	<p>〇〇小の学校司書は、定期的にbook newsという題名のお便りを出して下さいます。学校の図書館での子ども達の様子や本に関する催しのお知らせなどを載せて下さいます。時には大人向けのおすすめの本を紹介して下さることもあり、先生のおすすめの本の記事を通じて、今まで読んだことのなかったジャンルの作家さんを知りました。</p> <p>家庭で親が本を読んでいる姿を見て、子どもは以前にも増して本を読むようになりました。もともと本好きの娘とは今、お互いに読んでいる本の感想をのべあったり、同じ本を読んで共感しあったりしています。親子のコミュニケーションの潤滑油のようなお便りにとても感謝しています。</p>	<p>ご意見のような取組を、学校、子ども読書活動推進協議会、市立図書館など様々な形で広めていくよう努めます。</p>
16		12 子どもの家でのおはなし会	<p>(A地区にある「子どもの家」について)</p> <p>1つのボランティアがお話し会を担当するのは負担が大きい気もします(回数にもよりますが)。お話し会の時間を午後にする、高学年(小学校)以上を対象とした内容も考えていただきたいです。</p>	<p>「子どもの家」に午後來館するほとんどの児童の目的は、遊ぶことです。よって、おはなし会に参加する児童は見込まれないため、午後開催はおすすめしていないのが現状です。小学校高学年を対象にしたおはなし会については、効果的な実施方法について関係団体と検討していきます。</p>

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
17		12	子どもの家でのおはなし会	<p>(B地区にある「子どもの家」について) 実際に行われているお話会の対象年齢は違っていると思います。 未就学の幼児を対象として2つのボランティアグループが行っています。 小学生(7才~)から中学生(~15才まで)を考えているならば、新たな方法で本にふれる機会を作るように考えた方が良いと思います。</p>	<p>定期的で開催しているおはなし会において、未就学児の参加者が多い点は把握しています。しかし、対象年齢を限定していないおはなし会もあるので、「子どもの家」を利用できる年齢(中学生)まで対象に含みました。また、夏休み期間中に開催しているおはなし会では小学生の参加も見られます。 対象年齢を絞ったおはなし会については、効果的な実施方法について関係団体と検討していきます。</p>
18		12	子どもの家でのおはなし会	<p>子どもたちに本にふれて読んでもらうために、重要な事業だと思う。今後も各機関が連携を図って続けて頂きたいと思います。</p>	<p>今後も関係団体と協力し、継続していきます。</p>
19		13	ボランティアグループとの連携による公民館の図書の実	<p>山城学区としては、公民館図書を「工作教室」でのお話し会に使用させていただき活用させていただいていますが、一般には、貸し出しが出来る事なども知らない人達が多いように感じます。 公民館図書の充実と共に借りやすい体制を整えていただければと思います。</p>	<p>図書の貸し出しについては、一部の公民館でのみ実施していません。貸し出しできる館については、地域への周知を図っていきます。 なお、多くの公民館では施設規模の関係で蔵書の増加又は配架場所の設置が困難であり、貸し出し体制をとるまでには至れない状況です。</p>

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
20		14 公民館利用者との連携による本のリサイクルボックス事業	幼稚園や保育園ではボロボロの本を大事に読んでいるが、資源ゴミの日にはそれよりはるかにきれいな本たちが束ですてられているのを目にする。特に絵本は子供が大きくなって不要になるケースが多いので園などを通じてリサイクルの周知をはかってはどうでしょうか。	家庭で不用になった本のリサイクルについて、一部の公民館で受け入れを行っており、公民館図書の整備に役立っています。また子ども読書推進協議会が行っているものは、公民館図書の充実以外にも地域の保育園などで活用していただいています。本の整理等を行っていただくボランティアの確保や、公民館の施設規模による図書配置場所等の制約などの問題がありますが、受け入れを行う館については増加を図りたいと考えています。
21		15 使いやすい図書館	以前に比べ中央図書館の駐輪スペースがせまく、使いにくくなったように思います。検討をお願いします。対応してくださる方が増えたようで、ききやすく、又、対応もとてもいいので利用しやすいです。	駐輪スペースについては、平成18年、19年の2年間で場所を変更し面積も約2倍にしました。接遇については、気持ちよく図書館を利用していただけるよう職員一同研修等を行い取り組んでいきます。
22		18 ボランティアグループ等への講師派遣などの支援	中央図書館(会場)で、「読み語り講習会」が行われていますが、参加するのが抽選である事、中央図書館以外の図書館(西・南・北)で行われない事を改善していただけるとうれしいです。	講習会では実演を行うために人数制限を行っていましたが、講習内容を見直すことで、より多くの方が参加できるように努力します。なお、図書館員を講師とした「読み語り講座(入門編)」は、各協議会、各グループ等の申し出があれば、随時開催します。会場は各図書館でも市内ご指定の会場に出向きます。

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
23		18 ボランティアグループ等への講師派遣などの支援	<p>講習会を中央図書館で主催してありますがニーズのある講習会については参加人数を区切らないで全て受け入れてください。たとえば、高学年向けの読み聞かせ講習会は抽選の場合があると聞きます。一番多感な時期への読み聞かせはボランティアの意欲も低くその点をフォローする講習会は絶好の機会です。とても嬉しいです。しかし抽選に外れたら 来年まで待つのでしょうか。もっと広い会場を用意するなど 希望する全てのボランティアを受け入れられないのですか。ボランティアの技術の向上が 子ども達の本への親しみに繋がると思うので是非お願いします。</p>	
24		18 ボランティアグループ等への講師派遣などの支援	<p>最近、読み聞かせボランティア初心者への市主催の講習会等はよく目にします。一般的には、図書ボランティア＝読みきかせボランティアというイメージが強いですが、図書室の整備は手間や専門技術が必要なものが多く、司書一人だけでは追いつかないのが実状です。図書整備ボランティアの活動がまだ充実していない学校や地域への講師の派遣等が必要と感じます。これには、例えばベテランボランティアを他地区に交流を兼ね講師として派遣するなどといった、全市的なネットワークの活躍が期待されるものと考えます。</p>	<p>子ども読書活動推進協議会からの要望で、図書修繕や著作権についての講習会をすでに実施しています。ボランティアの派遣については、事業番号35「子どもの読書活動に関する全市的なネットワーク組織の構築」、事業番号37「子ども読書活動推進協議会の活動の活性化支援」で実施に向けて協議します。</p>

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
25		19 来館しにくい子どもへのサービス	地域の図書館に来館しにくい子どもたちが一番身近に利用しやすいのが、小学生・中学生であれば学校図書館です。学校図書館の充実に一層の力を入れることが、来館しにくい子どもたちへ本を届ける一番の近道だと思います。	現在、来館しにくい子どもへのサービスとして移動図書館車を活用した巡回・訪問を行っております。市内で訪問を希望する幼稚園・保育園に「移動図書館あおぞら号」で出向いています。また、各図書館から遠い地域の学校・公民館等にステーションを設置し、来館しにくい子どもへのサービスも行っています。学校図書館については、事業番号31「学校図書館の蔵書の充実」で取り組んでいきます。
26		21 支援を要する子どもへの配慮	ブックスタートに始まり、どの年齢の子ども達も(支援を必要とする子どもを含めて=具体例を進めてほしい)とりこぼされることなく、家庭・地域・行政・ボランティアの手が届き、心豊かに育つことを願ってやみません。	全ての子どもへの読書環境の向上を図る中で、支援を要する子どもに対しては格別の配慮が必要だと考えています。具体的には、多国語の資料の充実や、ブックスタートで開催会場への来場が困難な方には移動図書館開設時に実施するなどの取組を行っていますが、今後もさらに充実に努めます。
27		22 読書相談や調べものサービスの充実	図書館でレファレンスサービスが受けられることなど、一般にはまだまだ広くは知られていないように感じます。もっと図書館を有効に活用できるよう、図書館ではこんなサービスが受けられます！と、分かりやすく市民に知らせてほしいです。	読書相談や調べものに対するサービスを積極的に周知していきます。

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
28		23 学校と図書館の 協力事業	<p>図書館からは、いつも優先的に学校の図書室へリサイクル本を提供していただき、ありがとうございます。</p> <p>調べ学習に使う本は“子どもが必要としている本”とアンテナを張って、図書室に準備しているのですが、それでもなかなか対応できないことがあります。そういうときは、図書館から本をお借りすることになります。団体貸しだしで本をかり借りる場合、あおぞら号の本に限られてしまいます。貸しだし期間は、2週間～1カ月で十分ですので、図書館の本を小学校としてかりられるルールが早く出来ることを期待します。</p>	<p>中央図書館をはじめ市内4館では、個人利用のため本を各種取り揃えています。現状では学校に団体貸出で提供できるだけの複本数がありません。したがって、学校の希望に沿ってまとめて貸出を行うと、個人利用者へのサービスに支障をきたすため、団体貸出する資料は移動図書館用の資料に限らざるを得ないのが現状です。</p>
29		23 学校と図書館の 協力事業	<p>学校図書館への援助とは何でしょうか？学校司書が配置されていない学校への援助でしょうか</p>	<p>市内の小・中学校と公共図書館との協力・連携を充実させるため、情報交換・図書の寄贈等の他にボランティアの研修講師派遣や利用ガイダンス、幼稚園や小学校の見学、中学・高校・新採用教員などの体験学習の受け入れ等を行っています。</p>

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
30		23	学校と図書館の協力事業	<p>学校の授業などに必要な資料を簡単に市の図書館から借りられたり、学校と図書館で同じテーマにそったブックフェアを同時に開催するなどといった学校・図書館間の連携を、わかりやすく利用しやすく強めてほしいです。</p>	<p>学校の授業に必要な本は基本的には学校図書館で収集しています。市立図書館の子どもコーナーの本は、個人に貸出を行うために市が収集しているもので、学校の希望に沿うだけの複本数がありません。したがって、学校の希望に沿ってまとめて貸出を行うと、個人利用者へのサービスに支障をきたすため、団体貸出する資料は移動図書館用の資料に限らざるをえないのが現状です。</p> <p>ご意見にある「同じテーマに沿ったブックフェア」の同時開催などは、今後とも連携できるよう協議します。平成21年度は、「自殺予防週間」での連携を図りました。</p>
31		25	学校司書の配置	<p>司書教諭の配置が本校でもなされましたが、学級担任等の兼務であり、司書としての仕事に専念できないのが実情です。財政面で非常に厳しいとは思われますが、専任の学校司書の配置を強く望みます。</p>	<p>学級担任等の兼務により司書教諭としての活動が、十分できる状況にないことは理解しているところです。専任の学校司書の配置は考えていませんが、今後も常勤の専任司書教諭の配置について国に強く要望します。</p>
32		25	学校司書の配置	<p>第二次計画を推進して頂きたいと思います。現在、学校司書が配属されてから、子どもたちの学校図書館利用や教師の図書の活用が、良い方向に大きく変わってきています。サンスタッフの一員ではなく、常任としての学校司書の配置を強く望みます。</p>	<p>学校司書(サン・サンスタッフ)については、平成24年度までの小・中学校全校配置をめざしています。配置校においては、児童の読書活動や学校図書館の充実に成果が表れています。</p> <p>しかし、雇用については、「平塚市一般職の日々雇用臨時職員の取扱要綱」に則っていることから、現状ではご意見に沿うことはできないことをご理解ください。</p> <p>また、専任の学校司書配置は考えていませんが、常勤の専任司書教諭を配置するよう国に対して要望していきます。</p>

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
33		25 学校司書の配置	<p>学校司書がいらしてから図書館の機能が向上し、学習に関連した図書を準備して下さったりと、とても役立っています。</p> <p>しかし、月に12日間という限定された日だけであるし、研修権もない状態である。もう少し日数を増やし、子ども達が登校している時には、いつでもいるという状態であると望ましい。あるいは何日から何日までというしほりをなくし学校の行事等にあわせ柔軟に日にちを決められるようにしてください。</p>	
34		25 学校司書の配置	<p>学校の司書のお仕事が多く、月に15回程度では仕事が片付かないのではないのでしょうか。職員と同じ待遇を望みます。</p>	
35		25 学校司書の配置	<p>今年度は、小学校24校へ学校司書が配置されました。おかげで小学校の図書館の環境はとても良くなっています。しかし、学校図書館の「充実」ということを考えると、今の司書の配置状況では、むずかしいように思います。月12日、一日5時間では日々の貸しだし・返却作業、図書室の整理整とんで手一杯で、児童、授業にかかわる教育活動にたずさわることはなかなかできません。</p> <p>将来的に学校司書の勤務時間(仕事内容を含め)を考えていただけることを望みます。</p>	

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
36		25 学校司書の配置	平成24年度に全校配置を明記していただき、大変頼もしく思います。 一方で、既に現場でスキルを身につけた司書が雇用条件の不安定さに転職を考えているというような話もちらほら聞きます。折角育った人材を流失させるのはもったいないです。身につけた特殊技能を長く現場で生かしてもらえるように配置の先の条件整備も視野に入れるべきと考えます。	
37		25 学校司書の配置	市内全小・中学校配置へむけ予算をとっていただき嬉しいかぎりです。 “全校配置”が優先されることはわかるのですが、今後司書の待遇を考えていただけるとありがたいと思います。	
38		25 学校司書の配置	学校司書の方には、これだけやって頂いているのですから、仕事時間や待遇について、もっと改善してあげて欲しいと思います。	
39		25 学校司書の配置	第一次推進計画での学校司書の配置は、長年、無人に等しかった学校図書館に命をふきこむ事業であったと実感しています。 第二次計画での更なる充実を期待するとともに、学校司書のサンサンスタッフ扱いの改善を願いたいと思います。	

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
40		25 学校司書の配置	<p>学校司書さんのおかげで、子どもたちが沢山図書館に来るようになりました。さらなる充実のためには司書さんが夏休みも勤務できるようにしてあげて欲しいです。サンサンスタッフという立場のためか、実際、勤務して仕事をしたいだろうと思う3月～4月、7～8月等に何も出来ず、大変だと思います。 司書としてとても大事なことだと思うので考えてあげて欲しいです。</p>	
41		25 学校司書の配置	<p>『学校司書』という存在は、社会的には何の権利もありませんが、サンサンスタッフとしての勤務は、時間や出勤日などいろいろと都合の悪いところがあります。学校司書を置いていると歌っているだけではなく、そろそろ司書たちの権利も考えていただきたいです。夏休みなど長期休みにしかできない環境整備などもあり、もう少し柔軟な対応をおねがいしたいと思います。</p>	

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
42		25 学校司書の配置	<p>子どもの通う小学校に司書が配置されて4年目になります。図書室が学校の情報センターとして機能するようになり、図書委員会や図書ボランティアの活動も充実し、子どもたちにとってあたたかい居場所になりました。未配置の学校にも早く配置されるよう切望します。</p> <p>配置された学校も、まだサンサンスタッフなので、司書不在の日には学校図書館が機能しにくくなっています。できれば専門・専任になることを望みます。</p>	
43		25 学校司書の配置	<p>図書ボランティアをしていると「〇〇先生は？」と、学校司書を探している子どもを時々見かけます。サンサンスタッフなので、その日は出勤日でないことがわかると、その子はとても残念そうに帰っていきました。何かお聞きしたいことがあったのか、それとも何かお伝えしたいことがあったのかわかりませんが子どもが「司書の先生が必要！」と感じた時にいつでも居て下さったら、あの子はきっともっと嬉しかったでしょうし、図書室がもっともっと身近かに感じるに違いないと感じました。</p> <p>できれば学校司書はサンサンスタッフではなく、毎日居て下さる方向で話が進んでいったら素敵だなと思っています。</p>	

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
44		25	学校司書の配置	<p>子ども読書活動推進計画を平塚市として推進していくのであるなら、まず最初に平塚市の全小中学校に学校司書を配置するのが最善の選択だと感じます。司書教諭に専門職の仕事として任せればよいという考えでは 学校のシステムも先生方の意識も変わらないと思います。</p> <p>現場の先生に任せるのではなく専門職としての司書配置をしてほしい。全くいない学校図書館と1日でも司書がいる学校図書館は雲泥の差です。各校に司書が配置されれば 図書ボランティアの機能も発揮できるので司書の存在は不可欠です。スクールカウンセラーのように掛け持ちでも、週1日の勤務で公共図書館から司書を配置してください。学校による不平等をなくしてください。</p> <p>ボランティアは学校司書と手を組んで学校と輪になることでボランティアの意識と意欲の向上で子ども達に本に親しむ場を提供していけると思います。</p> <p>ボランティアはできることをできる範囲で何とかやっていくのだから子ども達にダイレクトに関わる司書を、ぜひ中学校では一斉に配置してください。</p>	<p>市立図書館からの司書の派遣は難しく、考えていません。学級担任等の兼務により司書教諭としての活動が、十分できる状況にないことは理解しています。専任の学校司書の配置は考えていませんが、今後も常勤の専任司書教諭の配置について国に強く要望します。</p> <p>また、学校司書(サン・サンスタッフ)の配置につきましては、徐々に配置数を増やしているところであり、平成24年度には、小・中全校配置をめざして努力しています。</p>

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
45		25	学校司書の配置	<p>予算の関係で 全小学校に司書が配置されていないのは、同じ平塚市民の子どもなのに不公正を感じずにはいられない。これから中学校に順次配置されていく予定だが小学校にあった司書というシステムが中学校になくてどうやって本と親しむ環境を作っていくのか、どのような順番でこの中学校に司書を配置するのか、中学校の司書の人数が 決まっているのなら スクールカウンセラーのように何校かを掛け持ちしてでも中学校全てに配置すべきである。待っていたら 我が子は 司書と出会うことなく卒業してしまう。</p>	<p>学校司書(サンサンスタッフ)の配置については、順次配置しており、平成24年度までには小・中学校全校配置をめざしております。学校のかけもちをしてでも全校配置をすべきとのご意見でしたが、現在の任用でも日数が足りないのご意見も多数いただいていることから、スクールカウンセラーの様なかけもちの配置は難しいと考えます。市としましてもできるだけ早期に全校配置ができるよう努力していきます。</p>
46		25	学校司書の配置	<p>中学校に司書を配置して欲しい。 (理由) ・現実として鍵がかかっている学校がほとんど先生が忙しく、選書を吟味している時間がなく、せっかくの予算が有効に使われていません。 ・小学校から引き続き、司書のいる図書室を作って欲しい。せっかく活発になってきた流れをとめないで下さい。</p>	<p>中学校の読書活動充実のためにも、平成24年度までの全校配置をめざし努力していきます。</p>
47		25	学校司書の配置	<p>中学校に司書を配置して欲しいです。無人の図書室は鍵がかかっていることが多く、思うように出入りができません。ボランティアも少ないため、常に開けておくことは不可能です。放課後等の利用が可能になると読書する機会も増えると思います。(もし、可能になった時は、受け入れる学校の準備・意識作りも大切だと思います。)</p>	

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
48		25	学校司書の配置	学校司書は給料等、勤務体系がサンサンスタッフであるため、資格があるのにもかかわらず、権威がなさすぎると思います。校長先生、職員の先生方に(学校によって、認識が異なるので)司書として、しっかり認めて頂けるような手立てをとって頂きたいです。	事業番号28「読書活動推進のための校内協力体制づくり」等の中で取り組んでいきます。
49		26	学校図書館の活用や読書指導の充実	情報収集能力に差があると学校図書館にも差が出てしまいます。協議会の活動にもからんでくるとポジションだけに、簡単に情報とコミュニケーションが図れるシステムを作ってみてはいかがでしょうか。	
50		26	学校図書館の活用や読書指導の充実	学校図書館の担当には国語科の先生になることが多く、これまで小学校の図書館では、文学の方に重点がおかれていた傾向があるため、自然科学や社会科の分野の本が十分にそろっていません。いろいろな分野の本をバランスよくそろえ、情報の新しい本、子どもたちのニーズに合わせた魅力的な本に入れ替えるなど、生きた図書室にしなければ、学校図書館を活用させることはできないと思います。そのために司書はやはり不可欠な存在であり、読書指導を充実させるには、司書や司書教諭が常に専門的な新しい情報を得る機会が必要です。	当事業における学校図書館活用支援事業の中で、司書教諭打ち合わせ会、学校司書説明会、連絡協議会、指導主事訪問による実施校別意見交換会等を行い、情報提供・情報交換を行います。
51		26 30	・学校図書館の活用や読書指導の充実 ・学校図書館担当者研修会	図書館運営についての講演会・研修会、他校との情報交換等は大変勉強になります。子ども達の読書活動を充実させるためには、担当者がまずしっかりと知識や技能をつけることが大事だと思いますので、他校や中央図書館、地域と連携した研修会等をもう少し増やしていただくとありがたいです。	事業番号30「学校図書館担当者研修会」と連携しながら、当事業における学校図書館活用支援事業の中で、司書教諭打ち合わせ会、学校司書説明会、連絡協議会、指導主事訪問による実施校別意見交換会等を活用し、必要な情報提供・情報交換を行います。

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
52		27 読書活動計画の作成、読書の時間の充実	子どもたちが自主的な読書活動計画をたて、読書の時間が充実するためには、子どもたちが手に取りたくなる魅力のある本、情報が新しく役に立つ本が身近にある必要があります。古くて汚い本が並ぶ図書室や学級文庫ではないように、図書室や教室に、先生や司書、図書ボランティアの目と手が行き届く体制作りができるといいです。	蔵書増や研修等、他課の取組とも連携しながら、校内の体制づくりを支援します。
53		27 読書活動計画の作成、読書の時間の充実	担任を持ちながら、活動計画を作成することは、かなり負担がかかるのではないかと。例があると作りやすいのではないのでしょうか。	事業番号26「学校図書館の活用や読書指導の充実」における学校図書館活用支援事業の中で、各校の計画書・報告書の資料を提供します。
54		27 読書活動計画の作成、読書の時間の充実	計画と共に、評価もして欲しいと思います。学校間の情報交換等や司書を配置した計画の充実を望みます。また、学校長には担当教諭と司書さんが、定期的に相談出来る時間の配慮を学校計画レベルでしてあげて欲しいです。	司書教諭と学校司書(サン・サンスタッフ)の連携は不可欠なもので、学校内の現状を踏まえつつ、校内の協力体制作りと併せて支援します。
55		28 読書活動推進のための校内協力体制づくり	内容がおおざっぱで具体性に欠けると思いますが。事業30の研修会に参加した『図書館担当者を中心に、学校司書、ボランティア、授業で利用する学級担任のよりよい協力体制作り』と明記すべきではないのでしょうか。	校内体制とは、各学校の実態に合わせ、多くの教職員がかかわり構築していくことが重要かつ大切であることから、校内の協力体制づくりを推進していく事業として位置づけたものです。

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
56		28	読書活動推進のための校内協力体制づくり	図書部がありますが機能しているかどうかの判断はどちらでされているのでしょうか。学校全体で学校図書館という機能を生かす試みをしていくべきと考えます。	学校図書館の機能については、各学校の実態を踏まえ、学校全体で考える必要があります。学校間の情報交換を進めながら、各校に応じた学校図書館の活用が図られるよう努めます。
57		29	図書だよりなどの広報活動の充実	司書や司書教諭が様々な学校の図書だよりを見て魅力的な図書だより作りの参考にしたり、広い視野を持ち刺激を受けいつも新しい情報を得ることができるよう、司書や司書教諭間の情報交換・交流の場が定期的にあるといいと思います。	事業番号26「学校図書館の活用や読書指導の充実」における学校図書館活用支援事業の中で、司書教諭打ち合わせ会、学校司書説明会、連絡協議会、指導主事訪問による実施校別意見交換会等の機会を活用し、図書だより等の必要な情報交換が出来るよう工夫していきます。
58		29	図書だよりなどの広報活動の充実	中学校では、図書便りを作成していますか。図書便りは誰が書くのですか、司書担当の先生では図書館便りの発行は難しいと考えます。	図書だよりについては、図書担当の教員が作成したり、学校司書(サン・サンスタッフ)や、図書委員会だよりとして生徒が作成したりするなど、各学校の実状に合わせて工夫しています。
59		30	学校図書館担当者研修会	21年度は、学校司書の意見交換会、図書システムの詳しい説明が、年度初めにあり、新年度の図書館活動がスムーズに始められたと思います。また2回目の研修会では、市川市学校司書高桑弥須子先生の講演を聞くことができました。活発に図書館活動をされている学校の事例は、大変勉強になりました。花水小では、図書システムを主に本の貸しだし・返却に利用しています。図書システムを今後こんなことに使える、あんなことに使えるといったことを指導して下さるとうれしいです。	研修内容にご意見を反映していきます。

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
60		30	学校図書館担当者研修会	「図書システム」の活用、学校図書館の運営、選書の工夫などの研修を実施します。 と下線部の加筆ご検討ください。 同じ本を必要以上に重複して注文してしまう、9類の本ばかり買って、4, 5, 6類が少ないということがあります。	「図書システム」を利用することによって分類についてデータを調べることもできます。また、研修等の際に蔵書のバランスについて講話のテーマとすることも検討します。「選書」も含めての「学校図書館の運営」ととらえています。
61		30	学校図書館担当者研修会	「図書システム」の研修について、進級処理の研修を5月に行っているのでは間に合わない。進級処理は4月に行うのでその前の研修を望みます。 情報交換の時間がとてもためになる。今困っていること、苦労していることが他校でどのように取り組んでいるのかはとても参考になる。	研修の際に情報交換もできるよう検討します。また、進級処理の研修もふくめて、「図書システム」を有効活用できるような研修を充実させていきます。
62		30	学校図書館担当者研修会	学校司書としては研修は認可されていないようですが、教員対象の研修に自由参加という形で参加させていただけてとても勉強になりました。 同じ教育の場にながら、なぜこのようなスキルアップの機会が教員にしか与えられないのか疑問です。まず平塚市から学校司書の仕事を認めることを始めていただければ、何か変わっていくような気がします。研修の機会を今以上に増やしていただければ、提供できる情報量も増え学校図書館の活用にも反映していけると思います。	学校司書の研修について、研修の機会が認められるよう働きかけたいと考えます。また、研修の形を工夫して、学校司書の方にも研修が受けられるよう検討していきます。
63		31	学校図書館の蔵書の充実	「蔵書の充実」とすべきではないでしょうか。「読書センター」「学習情報センター」と呼ばれる学校図書館を目指すには、利用されていない図書(情報が古い、子どもの生活になじまない等)は廃棄し更新を続けていく事こそ重要。冊数ばかりに注目せず、「内容」こそ重視してほしい。	冊数ばかりではなく内容を重視するという趣旨の意味合いをこめるためにも、ご意見のとおり、『蔵書の充実』という表記に修正いたします。

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
64		31	学校図書館の蔵書の充実	学校図書館が「読書センター」としての機能を持ち、情報センターとなるようにするには蔵書数や種類が増える必要がある。しかし、現状では本の購入予算は年々減っている。減額しないで欲しい。	<p>図書の選定にあたっては「全国学校図書館協議会図書選定基準」があり、図書の廃棄や更新についての目安は学校図書館評価基準、廃棄基準がありますので、それらを参考にしながらすすめることとなります。学級数や学校規模に応じて基準となる蔵書の標準数がありますので、おのずと学校により図書の予算が異なります。ご意見の通り、ただ単に冊数の基準を満たそうとするのではなく、図書の内容充実や読書活動の活性化の視点から図書の選定を進めていくことが重要と考えます。こうした視点をふまえ、市としては、学校の特色や指導の重点、子どもたちの実態や学習システムに応じた利活用しやすい図書整備を推進することの重要性を学校図書館関係者の協議の場に反映していきます。各学校が、主体的に確かな意図と見通しをもって計画的に図書館整備をすすめられるよう支援します。</p>
65		31	学校図書館の蔵書の充実	学校図書館図書標準とあるが、現状では基準の冊数のみしか示されていないと思う。学校の特色にあわせて蔵書を選んでいくことも必要だと思うが、資料となるものなど、最低限必要なものなどは基準が欲しい。	
66		31	学校図書館の蔵書の充実	子供向けの図鑑と一口に言っても1年生と6年生では理解する言葉も求める知識も大幅に違う。安易なネット検索に向かわない為にも、調べ学習に有効利用できる資料を充実させて欲しい。	
67		31	学校図書館の蔵書の充実	数だけではなく、内容が充実していることが大切だと思います。 子どもたちが手に取らない本、情報が古い本がびっしり並んでいて、蔵書数が充実していると言っても無意味です。学校によっては驚くほどデータの古い本まだ多数残っており、本当に調べ学習に役立つ本はわずかということもあります。 数だけではなく、内容を点検・把握し、本当の意味での充実を維持できる司書の必要性がここでも強く感じられます。	

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
68	9	31 学校図書館の蔵書の充実	<p>学校の図書館は 生き物と考えます 充足率も重要だと思いますが、まずは20年前の本を何とかしてほしいです。廃棄処理ができ新しい本を入れて循環させてこそ充足率は生きてくると思います。</p> <p>また図書部という部門が学校にあるようですが、学校司書を持たない学校の本の選定にあたる方の情報収集能力により子ども達のニーズにあった本を 手に取れるかどうか差が出てくると思います。担当の先生にお任せすることなく図書部全体で選本をしてほしい。</p> <p>小学校においては 児童数の差が大きく本の購入予算が 学校で随分と差があるようです。情報収集の場として本に親しむ場としての学校図書館は、どこも同じで機能を一律のレベルを保ってほしい。人数の多い学校では 公共図書館の利用が考えられるが、公共図書館も遠いので、学校図書館の充実もされないと悲しいです。</p>	
69		31 学校図書館の蔵書の充実	<p>20年前、30年前に発行された本が大量にある。それを新しいものに替えるほどの図書購入の予算がないので(だんだん減らされている)数もちろん、質(新しい資料)を充実させていければ良い</p>	

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
70		31 学校図書館の蔵書の充実	<p>P16に充足率の説明を入れてください。充足率のみで学校図書館の充実をはかるのは危険です。学校にも数さえそろっていればという発想があります。30と呼応して、本当の充実が出来るように担当課にお願いしたいです</p>	<p>充足率の説明についてはP5と同様に記入いたします。学校図書館の充実を図るのに蔵書の増加は全てではありませんが、必要な要素です。今後も蔵書の活用や指導等、読書活動そのものの充実の観点と合わせて取組みます。</p>
71		32 学校図書館の環境整備	<p>花水小では、児童数が多いため、新しい本もたくさん購入することができ、ありがたいことだと思っています。最近の本は、昔に比べ大きいサイズのものが多いです。本棚は、棚のたかさが固定されているものが多く、配架に大変苦労しています。ボランティアさんからは、子どもの目をひく、工夫した本の展示がしたいと声があがっています。是非、本棚、本を紹介する棚を購入できる予算をとっていただけたらと思います。</p>	<p>各校では限られたスペースの中で配架の工夫をしています。今後も、魅力ある学校図書館にしていくため、配架等に関する情報提供・情報交換をしていきます。</p>
72		32 学校図書館の環境整備	<p>最近、背の高い本や様々な大きさの本が多いので、学校図書館に棚板の動かない作り付けの棚が入ってしまった場合、わかりやすい分類・配置が困難になることが多いです。棚板を移動可能なものに作り変えたり、棚を新規で購入する場合や図書室を改装する場合には、棚やその他の整備品の規定を新しくする必要があります。また、表紙を見せて平置きすると子どもたちに手に取られやすくなるなど、人気の書店の見やすい本の配置や展示を参考にした上で、使いやすい魅力ある環境整備整ができるとういと思います。</p>	

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
73		32 学校図書館の環境整備	<p>学校図書館が会議の場として存在する学校 →子ども達が利用しやすい図書館を目指すなら本を読む机や椅子を会議のためのものではない仕様で整備してほしい。 テーブルを一行に並べた図書館の様は 会議室というほかないです。</p>	<p>学校図書館という機能を考えた環境整備が第一と考えます。今後も情報交換等の中で、机・椅子等の配置の工夫等を図ります。</p>
74		32 学校図書館の環境整備	<p>学校図書館の整備をし、蔵書数も増え資料なども工夫して収集し、学習に対応できるように努めてきました。ボランティアさんの協力がなければ、せっかく集めた資料も整理が追いつかず活用されないまま放置されていたかもしれません。とても助かりました。このような協力体制は、学校によって違うようです。なんとか格差のない学校図書館づくりができないか、これからの懸念事項ではないでしょうか。改善策としては、有志で整備ボランティア隊のようなものを結成し、ボランティアさんがほとんどいない地区への整備のお手伝いをするなど・・・困っている地区のお助け隊などついつつ試みるのもひとつの考え方だと思います。</p>	<p>学校司書(サン・サンスタッフ)の配置や子ども読書活動推進協議会との連携、現在企画されている全市的なネットワーク等、他課の事業とも関連させながら、進めていくことが必要と考えます。</p>

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
75		33	「図書システム」の活用と学校図書館の機能の充実	<p>「…蔵書をデータベース化し、蔵書データの有効活用を図り、学校図書館の機能の充実を推進する」とあるが、これは単独の学校図書館内についてのみを想定した表記のように読み取れる。</p> <p>市立小中学校の図書館を使っての情報教育のため、またそれぞれの図書館の蔵書の有効活用のためには単独では不十分である。各学校間だけでなく、公共図書館との蔵書検索などの情報システムがつながり、相互貸借ができることが望まれる。</p> <p>狛江市や座間市などの先進的な自治体の取組を参照し、ぜひそれを実現してほしい。</p>	市立図書館との連携について、学校の図書システムと市立図書館のシステムとは、互換性がありません。現時点では平塚市中央図書館のホームページを利用することによって、図書館の蔵書を検索することができます。また、学校図書館の蔵書については「情報ボックス・ライブラリー・サーチ」によって検索することができます。今後システム上連携する仕組みができれば検討していきます。
76		33	「図書システム」の活用と学校図書館の機能の充実	<p>図書システムの整備が終了したかのような印象を持つが、ハード面と利用者サイドの両方にまだ問題があるのが現状だ。</p> <p>「ハード面」…利用しているPCの処理能力が弱い。管理にプリンタが必要。バックアップの問題。</p> <p>「利用者」…サンサスタッフの司書は、PCのエキスパートではないので、子どもが利用した際、予想外の事態がおきやすく、その対処はできない。ボランティアしかいない日もある。よって、『ハードとソフト両面のバックアップ体制を構築します』と入れるとよい。</p>	小学校28校は平成21年度までに新しいパソコンが入り、中学校15校も平成23年度にパソコンが新しくなります。したがって、パソコンの処理能力もアップしています。また、図書用プリンターはすでに導入し、活用されています。バックアップ問題については、USBを配布し、対応しています。さらに、「図書システム」が活用されるようサポートしていきます。
77		33	「図書システム」の活用と学校図書館の機能の充実	データベース化されることにより、蔵書の管理がスムーズになりました。延滞・集計などの運営面においても、とても便利になりました。	さらに「図書システム」の活用をすることによって、学校図書館が利用されやすいものになるようサポートしています。
78		34	幼児と中・高生との絵本を介した交流の機会	誤植 増やしますため→増やすため	修正いたします。

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
79		35 子どもの読書活動に関する全市的なネットワーク組織の構築	ネットワーク組織を構築するのは重要なことだと思いますが、早急に取り掛かるのではなく、各中学校区内で十分時間を取り協議を重ねた上で推進して頂きたいと思います。	平成20年度までに全中学校区に読書活動推進協議会を立ち上げていただきました。設立時期やボランティアの考え方などから活動内容は地区により異なりますが、他地区の情報が欲しい、相談できるところがあると良い、問題を解決したいという思いは共通しています。そのような理由から、ネットワーク組織を立ち上げるため、現在「子ども読書活動ネットワーク準備委員会」(協議会、校長会、教育委員会が構成員)で、時間をかけて準備を進めています。
80		35 子どもの読書活動に関する全市的なネットワーク組織の構築	ボランティア・協議会の更なる活性化のために、協議会の連携は不可欠です。行政とボランティアの協働で、次の世代にも継承出来る平塚ならではのネットワークの構築を望みます。(組織＝負担感とならずに、一人ひとりのボランティアが、自由に選択できる、縛られない)	
81		35 子どもの読書活動に関する全市的なネットワーク組織の構築	全市的なネットワーク組織ができ、ボランティア同士でより気軽に交流し、情報交換し、協力しあうことができれば、地域や学校による読書推進の格差が少しずつなくなる大きな助けとなることと思います。	全15中学校区の子ども読書活動推進協議会相互の緩やかなネットワーク化を図ることから始め、その次の段階で全市的なネットワークを構築したいと考えています。
82		36 ボランティア養成相談窓口(ボランティアビューロー)の設置	ボランティアされる側にとって、本当にうれしいサービスができるボランティアになるために、大切にすべき基本的なこころの持ちかた、守るべきマナーなどをまとめ、する側の自己満足ではなく、よろこばれるボランティアが増えるよう、ボランティアの質向上のためのガイドブックを作るとよいと思います。	ご指摘のとおりボランティア活動はする側、受ける側との思いが一方通行ではいけないと考えます。ガイドブックの作成については、一人一人のボランティア活動に対する基本的な考え方がさまざまであることから、ボランティアの方々が話し合っ、活動者の視点でつくり上げるという方向で検討します。

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
83		37	子ども読書活動推進協議会の活動の活性化支援	子ども読書活動推進協議会の活動が活性化するためには、もっと広くわかりやすく、人々に活動を知らせ、理解されることが必要と感じます。まず、学校や公民館など地域の人々の拠点となる場の理解と積極的な協力をさらに得ることができればもっと理解されやすくなると思います。	市としての周知については、広報紙やホームページなどで市民への周知を図っていきます。学校や公民館などの協力については、協議会から要請があれば、できる限りの支援をいたします。
84		37	子ども読書活動推進協議会の活動の活性化支援	協議会の知名度・認知度が低いと思いますので、広く知って頂けるような配慮が必要だと思います。学校でボランティアをしている方にとって、地域に目を向ける、地域と関わりをもつという意識をどう育てていくかは課題になると思います。	事業番号40「広報紙等での読書活動の紹介」、事業番号41「子ども読書活動推進フォーラムの開催」などの事業で市民に広く周知いたします。さらに、各協議会においても公民館だより等に活動の様子等を掲載し、地域への周知を呼びかけていきます。
85		38	図書ボランティアの募集	担当課が各学校、連携機関等が子ども読書活動推進協議会と記されていますが、学校の理解が充分ではない現状をみると、いましばらくは社会教育課のサポートが必要と考えます。	各中学校区の子ども読書活動推進協議会は、市の政策として設立させていただいた経緯がありますので、各関係機関の理解が深まるよう今後も継続して支援したいと考えます。
86		38	図書ボランティアの募集	所属している地区は増えているが、ボランティアの特性上、任期などは、本人の意志に任されている。人を増やすだけでなく、ある程度、責任をもつ、継続的な意識等、質の向上も考えた方が良いと思う。(でも楽しく活動することが根底にあっての話ですが・・・)	学校で主に活動をされているボランティアの方は児童・生徒の保護者であることが多く、児童・生徒の卒業とともに、辞められてしまう方も多いと伺っています。今後は、意識啓発に取り組むとともに、保護者の方だけでなく地域の方を協議会ボランティアとして広く募集して頂くよう、ご案内していきたいと考えています。

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
87		39 中学生、高校生のボランティア活動の情報提供や相談の機会の充実	中学生に図書ボランティアをやってもらうにはどうするのですか 学校と協議会が連携するシステムになっていますが子ども達が学校や地域で活動するボランティアを学校は理解しているのでしょうか 推し進めることが平塚全市で行われるのでしょうか	
88		39 中学生、高校生のボランティア活動の情報提供や相談の機会の充実	中学生、高校生の中にも、絵本を読むのは苦手でも、本が好きで手先が器用なので、本の修繕や分類整理などの図書整備ならやってみたい！と思う生徒もいると思います。図書整備こそ人手が必要だったり、新しい感性やセンスが活かされることも多くあります。ぜひ中高生に、読み聞かせボランティアだけでなく、図書整備ボランティアにも参加してもらえるようになるといいです。もしかするとそれをきっかけに、司書や本に関わる仕事に興味を持つようになる人もいるかもしれません。	協議会の活動を、中学生にもボランティアで関わってもらおうということであれば、各協議会の構成員でもある中学校の校長に相談してください。生徒のボランティア活動は自主性を重視していることから、強制的に参加という勧め方はしませんが、情報提供し相談があった場合の環境を整えていきたいと考えます。
89		39 中学生、高校生のボランティア活動の情報提供や相談の機会の充実	担当課:現在ではまだ実績がないが、協働推進課の協力を得ることで、読書がライフステージを通しての取組となり、自立した市民を育てることができるように考えます。協働推進課、市民活動センターとの協働を提案します。	協働推進課と検討いたします。

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
90		39 中学生、高校生のボランティア活動の情報提供や相談の機会の充実	手がかかり大変だと思いますが、中学生の職業体験、ボランティア活動の場としてもっと図書館を開放して欲しいと思います。	現在中学生の図書館での職業体験は学校の体験事業の一環として受け入れています。 また中高生のボランティアについては、社会参加活動として、申し出があれば随時受け入れています。
91		40 広報紙等での読書活動の紹介	広報誌掲載の記事のことですが、連載での記事、例えば町名の由来などですが、とてもおもしろいものもあるので、まとめて読んでみたいと思っても、広報のバックナンバーを探すしかないようなので、どこかでまとめて保管してほしいと思います。 (問い合わせにすぐ対応出来るように)	事業に対するご意見ではないようですが、広報紙のバックナンバーは、中央図書館でご覧になれます。今後は広報紙のスペースの問題がありますが、各中学校区の協議会活動の紹介等を掲載していきたいと考えています。
92		41 子ども読書活動推進フォーラムの開催	平塚市における子ども読書推進活動への理解を広げ深めるために、年に一回全市民を対象にするフォーラムはとても大切で有効なものだと思います。今後も、子どもたちが大喜びし毎年市民に楽しみにされるようなイベントとなるよう、企画・開催されることを期待しています。	今後も市民と行政の協働によって、期待して頂けるような内容で開催するように努力します。
93			学校司書は正規雇用が理想ですが、諸般の事情で困難なことは理解します。 そこで、ボランティアとの協働が不可欠だと思います。学校やボランティアとの信頼関係づくりだけでも大変だと思います。本来の仕事の達成感も考慮すると、短期間での配置で終わること無い様せめて、1年生が6年生になるくらいの長期で配置を考えて欲しいと思います。	学校司書(サン・サンスタッフ)の配置に伴い、読書活動の充実が表れています。さらなる充実をめざして検討していきます。

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
94			平塚市子ども読書活動推進計画第二次案は一次案に続き、よく考えられ作成されていると思います。計画を推進されるためにも予算が十分組まれることを望みます。	厳しい財政状況ですが、努力します。
95			さまざまな部署での取り組みを一覧にまとめられていて、市全体として子どもの読書に関わる事業をこんなにたくさんやっているのだということが良くわかりました。	多くの市民に知っていただけるように、計画のリーフレット版の作成を予定しています。
96			「つながる子どもの読書活動」など図式化されているところがわかりやすかったです。	子どもが見ても分かりやすい計画書とするため、ビジュアル化しました。
97			細かいですが、ページ数のところのイラスト(キャラクター)も親しみやすく良かったです。	
98			第一次計画を受け、より具体的に計画が作成されていると思います。特に「つながり」のキーワードが良いと思います。言葉だけではなく、それぞれの事業が有機的につながることを期待します。	計画書にあるように、様々な関係機関との連携に努めて推進していきます。
99			第二次計画を推進する行政と市民の推進会議の設置。 全市的に推進していく、行政やボランティア当事者のみでなく有識者等も交えたテーブルをつくりが必要ではないでしょうか。	ご指摘の内容は、今後の課題とします。
100			「子ども読書のまちひらつか」をもっと発信してほしい。	事業番号40「広報紙等での読書活動の紹介」、事業番号41「子ども読書活動推進フォーラムの開催」などの事業で市民に広く周知します。

	ページ	対象事業		意見内容	意見に対する考え
		事業No	事業名		
101				<p>第一次計画のなかで、全15中学校区に推進協議会が発足したことは、とてもすばらしいことではないでしょうか。全国に誇れる行政と市民活動の成果だと思います。</p> <p>第二次計画では、各協議会の更なる連携を図り、子どもの読書環境づくりに反映をしていただきたい。</p>	<p>事業番号35「子どもの読書活動に関する全市的なネットワーク組織の構築」、事業番号37「子ども読書活動推進協議会の活動の活性化支援」で取り組みます。</p>
102				<p>全15中学校区で、ボランティアが試行錯誤しながらも、子ども読書の環境づくりに懸命に取り組んだ全ての事業をみると総額105万円の予算でよくできたものだと感心すると同時に、ひらつかの子どもたちは温かく見守られていますね。協議会に対する、予算をしっかりと考慮してください。</p>	<p>厳しい財政状況ですが、努力します。</p>
103				<p>公民館でも 図書コーナーがあり 本を購入する予算があると耳にしました。本の選定は誰がするのでしょうか？</p> <p>公民館主事さんがされていると思いますが困っている公民館はありませんか？</p> <p>リサイクル本を受け入れるのにも その後の処理はどうされるのでしょうか？公共図書館に受け入れてもらうのですか？</p>	<p>公民館では、子ども読書活動推進の一環で子ども向け図書を毎年購入しています。本の選定は、地区の子ども読書推進協議会や公民館の読み聞かせグループ等の意見を参考に行っています。</p> <p>リサイクル本の受け入れを行っている館では、前述の団体の方々等の協力を得ながら、公民館にある図書の入れ替えや整理等を行っています。</p> <p>なお、地区公民館でお預かりした本を市立図書館で受け入れてもらうことはありません。</p>

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
104			<p>すこし前の東京新聞に「子に言う前に親が読書」という記事がありました。</p> <p>その中で、学校での「朝読」は定着してきたので、次は親子で同じ本を読んで感想を語り合う「家読(うちどく)」を薦めていました。</p> <p>中学1年の息子は、父親が読んでいる時代小説を楽しそうに読んでいます。</p> <p>もちろん、朝読の時間は本を読んでいるそうですが、クラスの生徒の半分ほどは、遊んでいるとの事です。</p> <p>この4年ほどで、図書室の地位が上がったように思いますし、図書ボラもずいぶん優遇されてきて、たくさん勉強させてもらいました。</p> <p>目標としてきた読書のための環境づくりは達成されつつあるように思います。</p> <p>だからこそ、今後は一部の人のためだけのものではなく、いろんな人がこの環境を利用してもらいたい、本好きの人が何かやっている…で終わらせたくないと思いました。</p> <p>朝読の時間に本を読まない子たちは、読みたい本がないから、読むべき本がわからないから遊んでいるのではないのでしょうか？</p> <p>でも、放課後のBOOK OFFIにはたくさん中学生がいます。マンガなら読むんですね。</p> <p>朝の読書タイムを読む時間からブックトークの時間にするとか、自分の好きな本について語り合う(マンガも含む)時間をとるのはむずかしいのでしょうか？</p> <p>子どもには夏休みには必ず、読書感想文や読書カードの宿題がでます。それを親子で本を読みあうとか、家族の感想を書いてもらうとか、宿題の形を変えてもらうのはできないのでしょうか？</p> <p>いずれも学校の協力がなければできませんし、家族の形も複雑になっていますので、難しいと思います。</p> <p>ただ、せっかくできあがった環境を維持するためにたくさんの人を無理せず、自然に巻き込んでいってほしいな、と思います。</p>	<p>子どもの読書について、朝読書の時間や宿題の扱い等、さまざまな工夫の余地があるようです。</p> <p>学校や家庭のそれぞれの実状を踏まえ、取組を進めていきます。</p>

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
105		子ども読書の日について	<p>子ども読書の日は、4月23日で市のお話会等のPRはされていても、その頃はまだ小学校では、学校司書の配属はされているかいなかです。つまり学校側では、図書担当の教員が何らかの対応をしていなければ、ポスターを掲示するにとどまります。忙しかったり関心がなければ、ポスターさえ掲示されないでしょう。実際の貸し出しは、5月からの学校が多いでしょうし、学校サイドではあまり読書推進に反映されている日とは思えません。児童・生徒にPRするには、やはり学校サイドでのPRが重要だと思います。</p>	<p>4月は各学校とも年度はじめの校内体制作りの時期となっており、各学校の計画に基づいて取組を進めることが必要と考えます。</p>
106			<p>事業番号18～22 効果的な広報を望みます。</p>	<p>広報ひらつか、図書館HP、ポスター、チラシ等を使用し効果的な広報を行います。</p>
107			<p>本市において、4つの公共図書館が配置されている。 図書館本来の業務も大変でしょうが、鎌倉市のような 市民ボランティアを育成し、図書館がもっと中心的存在になり子ども～国民読書年をしっかりと考えて欲しいと思います。（図書館を拠点にしたまちづくり）</p>	<p>平塚市は全中学校区に協議会が設立されています。教育委員会では、課の枠を超えたプロジェクトチームが中心となり、学校や地域の方たちと行政が協働して子ども読書活動を推進しています。</p>

	対象事業		意見内容	意見に対する考え
	ページ	事業No 事業名		
108			<p>子ども読書のHPの充実(ぜひ図書館にやっていただきたい)</p> <p>市内で多くの事業が展開されています。タイムリーな情報提供が必要です。</p>	<p>子ども読書関連のホームページの充実を図ります。子どもが図書館で本を探索するときに必要な情報や、調べものをするときに安心して利用できるサイトの紹介等内容の充実を図っています。</p> <p>子ども読書活動推進協議会関係の情報については、各協議会と緊密に連絡を取り合いタイムリーな情報提供ができるようにします。</p>
109			<p>2010年はちょうど国民読書年となりますが平塚市でも特別な取組はありますか。</p>	<p>現在、内容の検討中ですが、関係課等で協議し事業を行う予定です。</p>